

## 「生涯健康とスポーツ」の実技に関するアンケート調査

A questionnaire study of practice in health and sports

山本裕二\* 竹之内隆志\* 石田浩司\*  
押田芳治\* 近藤孝晴\*  
中島豊雄\* 宮村実晴\*

Yuji YAMAMOTO \* , Takashi TAKENOUCI \* , Koji ISHIDA \*  
Yoshiharu OSHIDA \* , Takaharu KONDO \*  
Toyoo NAKASHIMA \* , Miharu MIYAMURA \*

In 1994, Nagoya University adopted a program of four-year consecutive education for all students. The subject of health and physical education was designated as (lifelong) "Health and Sports" among the theme-oriented subjects. In order to obtain basic data for developing, improving and planning of practice education for "Health and Sports", it is necessary to grasp the present situation of 1) health and physical fitness in the student, 2) the student's sports activity and 3) opinions and demands made by the student concerning school, respectively. Based on this idea, the contents of the questions were established as follows: (A) selected practice course in this period, (B) selected practice course over three periods, (C) health and physical practice in school and daily life (D) for the student themselves and (E) opinions, demands and impressions of the practice. The questionnaire was collected from 1,458 students who had obtained 3 units in practice and were students of Literature, Education, Informatics and Sciences, Science, Medicine, Engineering and Agriculture of our University.

Results obtained from the questionnaire can be summarized as follows:

1. Only about half were satisfied with their health condition, and only 10% were satisfied with their physical fitness, respectively.
2. One out of 5 students partake of or belonged to the athletic club and about half of all students did not physical exercise except for the practice course in university.
3. Almost all the students who were able to select what they wanted showed good attendance. However, those students who could not select what they wanted showed low levels of satisfaction and attendance more or less.
4. One out of three student seemed to be satisfied with the facilities available, but not with the large number of students in one practice course.

From these results it was suggested that practice education in "Health and Sports" is yet insufficient. At the same time, however, we were able to obtain valuable data and opinions which lent themselves to future improving and planning for practice education.

### はじめに

名古屋大学では、およそ30年の歳月をかけ歴代の総長、教育改革関係各種委員会委員および職員によって種々検討された本学の教育改革の総決算ともいえるべき『四年一貫教育』が平成

6年4月より開始された。本学における教育改革は、保健体育の教育改革も含まれたことはいうまでもない。これまで名古屋大学教養課程の中にあつた保健体育科目は、この四年一貫教育体制下で基本主題科目の『生涯健康とスポーツ』として新しく生まれ変わった。ここに至るまでの

\* 名古屋大学総合保健体育科学センター

\* Research Center of Health, Physical Fitness and Sports, Nagoya University

経緯ならびに本学四年一貫教育の内容については、学園だより97号（名古屋大学における四年一貫教育、野村浩康）、教養部ニュースNo.87（教養部の廃止に当たって、近藤哲生）および名大トピックスNo.13（21世紀を目指す名古屋大学の新たな展開）の中で詳細に記載されている。ここでは総合保健体育科学センター教務委員会が中心となり『生涯健康とスポーツ』の実技に関するアンケート調査を行った結果について述べたい。

## I. 調査の目的

現在、ほとんどの学生は『生涯健康とスポーツ』4単位を履修することになっている。名古屋大学ばかりでなく全国的に自己点検・評価が行われており、近い将来『生涯健康とスポーツ』も本学の教育における真の意義が問われることになる。本学の教育改革には長年の歳月を要したことから、総合保健体育科学センターの教官一同は、一致協力して基本主題科目『生涯健康とスポーツ』を担当すると同時に自己点検・評価を行い、よりよい『生涯健康とスポーツ』の教育をめざし、名古屋大学における新しい四年一貫教育の目標達成の一翼を担いたいと考えている。そのためには、新しく生まれ変わった『生涯健康とスポーツ』を受講した全学生がどのようにこれを受け止めたかを知り、『生涯健康とスポーツ』の教育を見直し改善する必要がある。

本調査の目的は、平成7年度前期で『生涯健康とスポーツ』の実技を3期間履修し終えた受講学生を対象にアンケート調査を行い、教育を受ける側からの意見や問題点を把握し、次年度以降の時間割編成、開講コマ数、開講実技コースの設定、教育設備の整備など実技の指導・教育方法の改善・充実に必要な基礎的資料をうることにある。

## II. 調査の方法

### 1. 調査項目

『生涯健康とスポーツ』実技の授業計画・改

表1 調査対象となった学部別・男女別人数

学部	男子	女子	全体
文学部	58	66	124
教育学部	18	42	60
情報文化学部	53	27	80
理学部	183	41	224
医学部	62	22	84
工学部	683	39	722
農学部	92	71	163
合計	1149	309	1458
%	78.8	21.2	

善に必要な基礎的資料をうるためには、まず(1)学生の健康と体力の現状、(2)学生のスポーツ活動の現状および(3)学生の受講状況や授業に対する意見、要望などをそれぞれ把握する必要がある。そこで今回のアンケート調査においては、調査項目をA(今期受講した実技について)、B(これまで受講した実技全般について)、C(健康と運動やスポーツに関して)、D(受講者自身について)およびE(授業全般に関する意見、要望、感想などについて)に大別した。なお実技授業時間内でアンケート調査を行うことから、受講学生ができるだけ回答しやすい質問項目とした。

### 2. 調査対象

調査の対象としたのは、四年一貫教育へ移行した後、基本主題科目「生涯健康とスポーツ」の実技3単位を履修し終えた文学部、教育学部、情報文化学部、理学部、医学部、工学部、農学部の2年生全員である。調査対象者の内訳を表1に示した。

### 3. 調査時期

1995年7月10日から7月21日までの実技の授業時間に、授業担当専任教官および非常勤講師の協力を得て、授業時間の一部をさいて調査を実施した。

## III. 結果および考察

1. 学生の自己評価からみた健康・体力の現状と運動の実施状況

実技アンケート

表2 健康・運動に対する自己評価

観点	自己評価	男子	%	女子	%	全体	%
現在の健康状態は	不健康	73	6.4	16	5.2	89	6.1
	あまり健康でない	233	20.4	40	13.0	273	18.8
	どちらともいえない	234	20.5	60	19.5	294	20.3
	やや健康	384	33.6	118	38.4	502	34.6
	非常に健康	220	19.2	73	23.8	293	20.2
現在の健康状態に対する満足度は	不満足	131	11.5	21	6.8	152	10.5
	やや不満足	306	26.7	59	19.2	365	25.2
	どちらともいえない	230	20.1	53	17.3	283	19.5
	やや満足	291	25.4	106	34.5	397	27.4
	満足	186	16.3	68	22.1	254	17.5
現在の体力レベルは	かなり低い	223	19.5	66	21.5	289	19.9
	やや低い	393	34.4	108	35.2	501	34.5
	普通	358	31.3	104	33.9	462	31.8
	やや高い	136	11.9	26	8.5	162	11.2
	非常に高い	34	3.0	3	1.0	37	2.5
現在の体力レベルに対する満足度は	不満足	351	30.7	71	23.1	422	29.1
	やや不満足	443	38.7	131	42.7	574	39.6
	どちらともいえない	199	17.4	55	17.9	254	17.5
	やや満足	106	9.3	39	12.7	145	10.0
	満足	45	3.9	11	3.6	56	3.9
健康問題への関心は	ない	61	5.3	9	2.9	70	4.8
	あまりない	132	11.5	23	7.5	155	10.7
	普通	337	29.5	99	32.2	436	30.0
	ややある	405	35.4	120	39.1	525	36.2
	ある	209	18.3	56	18.2	265	18.3
現在の運動能力に対する自信は	ない	195	17.0	91	29.6	286	19.7
	あまりない	317	27.7	106	34.5	423	29.2
	普通	362	31.6	65	21.2	427	29.4
	ややある	185	16.2	43	14.0	228	15.7
	ある	85	7.4	2	0.7	87	6.0
運動は好きですか	嫌い	26	2.3	15	4.9	41	2.8
	どちらかといえば嫌い	78	6.8	26	8.4	104	7.1
	どちらともいえない	194	16.9	68	22.0	262	18.0
	どちらかといえば好き	365	31.8	110	35.6	475	32.6
	好き	485	42.2	90	29.1	575	39.5

1) 学生の健康と体力の自己評価

(1) 健康状態 (表2)

現在の健康状態が「非常に健康」、「やや健康」と答えている者は54.8%と約半数にとどまり、「不健康」、「あまり健康でない」と答えている者が14.9%と、4人に1人にのぼっている。

しかも、現在の健康状態に「満足」、「やや満足」している者は44.9%と5割に達しておらず、「不満足」、「やや不満足」の者が35.7%にもなる。性別では男子の方に健康状態が良くないと考え、満足もしていない者が多い。自分自身の判断基準に基づく結果とはいえ、学生の健康

表3 中学・高校時代の運動経験と大学での運動部等への参加

時期	運動形態	人数	%
中学時は	学校の運動部で実施していた	1157	79.6
	学校以外のスポーツクラブで実施していた	26	1.8
	気の向いたときに友達とやっていた	69	4.7
	学校の授業以外には実施していなかった	201	13.8
高校時は	学校の運動部で実施していた	734	50.7
	学校以外のスポーツクラブで実施していた	25	1.7
	気の向いたときに友達とやっていた	222	15.3
	学校の授業以外には実施していなかった	467	32.3
大学では	学内の運動部に所属	308	21.1
	学内の同好会に所属	331	22.7
	学外のクラブに所属	52	3.6
	いずれにも入っていない	766	52.6

表4 運動の実施頻度

運動の実施頻度	男子	% 女子	% 全体	%			
大学では授業以外にほとんどしない	480	41.8	175	56.8	655	45.0	
どのくらいの頻度で	1カ月に2~3回	133	11.6	30	9.7	163	11.2
運動を実施している	1週間に1回程度	180	15.7	32	10.4	212	14.6
すか	1週間に2回程度	124	10.8	24	7.8	148	10.2
	1週間に3日以上	231	20.1	47	15.3	278	19.1

状態は必ずしも良好であるとはいえず、特に男子にその傾向が強い。

## (2) 体力と運動能力 (表2)

現在の体力が「非常に高い」、「やや高い」と答えている者は13.7%に過ぎず、「かなり低い」、「やや低い」と答えている者は54.4%と半数を超えている。また、現在の体力レベルに「満足」、「やや満足」と答えている者は13.9%に過ぎず、「不満足」、「やや不満足」の者が68.7%と多く、3人に2人が自分の体力レベルに不満足である。さらに、現在の運動能力に対して自信が「ある」、「ややある」と答えている者は21.7%に過ぎず、一方、自信が「ない」、「あまりない」者は44.9%にもなっている。「自信のない」者が「自信のある」者の2倍に達している。体力や運動能力は積極的な健康状態を表す重要な指標であるが、自己評価からみれば、学生の現在の体力や運動能力はきわめて低いといわねばならない。

## 2) 運動の実施状況

### (1) 運動部、同好会、クラブへの参加 (表3)

現在、大学の運動部に所属する者は21.1%

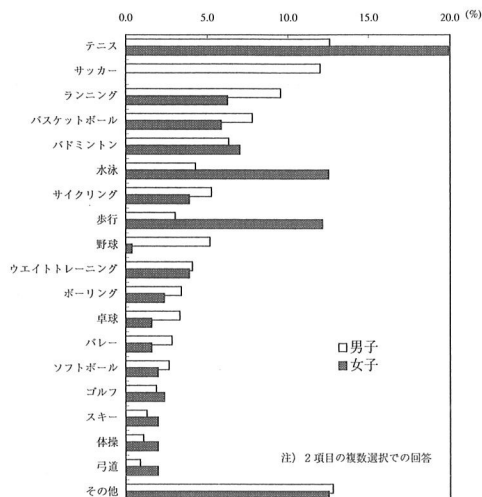


図1 普段よく行うスポーツ

であり、中学、高校時代における所属率の81.4%、52.4%と比べると、大学での所属率はかなり低くなっている。学内の同好会(22.7%)、学外のクラブ(3.6%)の所属者を加えても、現在何らかのグループに入って定期的にスポーツ活動する学生は半数に達しておらず、多くの者は単発的なスポーツ活動に参加せざるを得ない状況におかれている。しかも現実には、次項でみるように、そういった学生の大多数は授業以外に運動する機会を持っていない。

### (2) 運動の実施頻度 (表4)

大学の授業以外に現在どの程度運動を実施するかをみると、週1回以上の頻度で運動している学生が43.9%いる一方で、授業以外には「ほとんどしない」と答えた者が45%にも上る。中学、高校時代に授業以外に運動を実施しなかった者がそれぞれ13.8%、32.3%であることから、大学に入ってから運動しなくなった者がかなり存在することになる。したがって、授業以外に定期的に運動を行わない学生にとっては、定期的な運動やスポーツを実施する機会である実技授業のもつ意義は大きい。

### (3) 普段よく行うスポーツ (図1)

学生が普段よく行うスポーツ種目は、図1に示すように、そのほとんどが授業の中で取り上げられている種目であり、取り上げていない種目は、

表5 大学卒業後の運動実施の可能性

運動実施の可能性		男子	%	女子	%	全体	%
大学卒業後に運動を定期的に実施すると思いますか	実施する	132	11.6	17	5.6	149	10.3
	たぶん実施する	328	28.8	94	30.7	422	29.2
	わからない	401	35.2	98	32.0	499	34.5
	たぶん実施しない	227	19.9	84	27.5	311	21.5
	実施しない	52	4.6	13	4.2	65	4.5

表6 ガイダンスの有効性

種目選択への有効性	人数	%
役立った	485	33.0
どちらともいえない	640	43.5
役立たなかった	345	23.5
計	1470	

表7 今期履修した種目

種目	男子		女子		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
ゴルフ	172	15.0	45	14.6	217	14.9
サッカー	83	7.2	0	0.0	83	5.7
ソフトボール	92	8.0	7	2.3	99	6.8
卓球	171	14.9	52	16.8	223	15.3
テニス	146	12.7	54	17.5	200	13.7
バスケットボール	106	9.2	16	5.2	122	8.4
バドミントン	110	9.6	53	17.2	163	11.2
バレーボール	125	10.9	28	9.1	153	10.5
ウエイト・トレーニング	29	2.5	3	1.0	32	2.2
トータル・フィットネス	109	9.5	45	14.6	154	10.6
アダプテッド・スポーツ	6	0.5	6	1.9	12	0.8
計	1149		309		1458	

サイクリング、ボーリング、弓道などの3種目だけである。授業として取り上げているスポーツが学生の日常生活におけるスポーツ実践に役立っていると思われる。男女差の著しい種目もあり、例えば、サッカー、野球は男子が圧倒的に多く、テニス、水泳、歩行は女子に多く見られ、スポーツ種目の好みは男女によっていくぶん異なる傾向がある。

(4) 卒業後の運動実施の可能性 (表5)

卒業後に定期的に運動すると思いますかという問いに対して、「実施する」、「多分実施する」と答えた者は39.5%であり、一方「実施しない」、「多分実施しない」が26.0%、「わからない」が34.5%となっている。学生の半数以上は卒業後の社会生活にまで運動習慣を維持し続けることに確信を持っていない。

表8 3期の種目選択状況

種目	1期目		2期目		3期目	
	人数	%	人数	%	人数	%
ゴルフ	135	9.1	248	16.9	222	15.1
サッカー	153	10.4	43	2.9	82	5.6
ソフトボール	111	7.5	54	3.7	105	7.1
卓球	239	16.2	193	13.2	221	15.0
テニス	264	17.9	225	15.3	202	13.7
バスケットボール	-	-	130	8.9	121	8.2
バドミントン	42	2.8	273	18.6	165	11.2
バレーボール	212	14.3	111	7.6	153	10.4
野球	38	2.6	57	3.9	-	-
ウエイト・トレーニング	104	7.0	69	4.7	34	2.3
トータル・フィットネス	176	11.9	36	2.5	159	10.8
アダプテッド・スポーツ	4	0.3	5	0.3	11	0.7
スキー	-	-	22	1.5	-	-
計	1478		1466		1475	

注) 表中-は開講しなかったことを示す

2. 「生涯健康とスポーツ」実技の授業評価

1) 現状の評価

(1) ガイダンスの評価 (表6)

ガイダンスが種目選択に「役立った」と答えた者は33%で、3人に1人に過ぎない。この結果は、ガイダンスでは実技の意義や健康や運動の重要性に重点を置いているためかもしれないが、今後検討が必要であろう。

(2) 受講種目

① 今期(3期目)の履修種目 (表7)

表7に示すように、今期は11種目が開講されたが、それらの種目を履修した学生数を種目別にみると、受講者が多い種目は卓球、ゴルフ、テニス、少ない種目はバスケットボール、ソフトボール、サッカー、両者の中間にはバドミントン、バレーボール、トータル・フィットネスがある。男女差の著しい種目をみると、男子はサッカー、ソフトボールが多く、女子はバドミントン、テニス、トータル・フィットネスが多く、その他の種目については男女差がほとんどない。

② 3期間の履修種目 (表8)

各種目の受講者数を各学期(1期、2期、3

表9 3期の種目選択の希望の実現度

希望の実現度	1期目		2期目		3期目	
	人数	%	人数	%	人数	%
第1希望だった	1297	88.0	1277	87.2	1219	82.8
第2希望だった	64	4.3	117	8.0	143	9.7
希望しないものであった	113	7.7	70	4.8	110	7.5
計	1474		1464		1472	

表10 今期の種目選択の希望の実現度

希望の実現度	文	教育	情文	理	医	工	農	計
希望通りに受講できた	98	48	69	178	69	609	145	1217
%	79.0	80.0	86.3	79.5	82.1	84.3	89.0	83.5
希望する種目はあったが	22	12	9	42	7	97	14	203
希望通りに受講できなかった	17.7	20.0	11.3	18.8	8.3	13.4	8.6	13.9
希望する種目なかった	4	0	2	4	8	16	4	38
%	3.2	0.0	2.5	1.8	9.5	2.2	2.5	2.6

表11 今期履修した種目別にみた選択の理由

選択理由	ゴルフ	サッカー	ソフト	卓球	テニス	バスケ	バドミ	バレー	W・トレ	T・フィ	AD	計
運動不足を解消し、健康の増進をはかりたいので	11	31	38	54	71	59	56	47	16	65	3	451
%	2.5	19.1	19.2	12.4	18.0	24.3	17.0	15.5	25.0	21.2	13.6	15.6
中・高で経験した好きな種目だから	7	46	47	32	69	71	52	87	0	21	2	434
%	1.6	28.4	23.7	7.4	17.5	29.2	15.8	28.6	0.0	6.9	9.1	15.0
今までに経験のない種目だったから	142	6	8	59	39	9	50	9	6	9	0	337
%	32.6	3.7	4.0	13.6	9.9	3.7	15.2	3.0	9.4	2.9	0.0	11.7
運動量が少ないから	40	1	5	49	4	1	5	10	1	8	0	124
%	9.2	0.6	2.5	11.3	1.0	0.4	1.5	3.3	1.6	2.6	0.0	4.3
運動量が多いので	2	14	1	2	3	33	11	6	1	14	0	87
%	0.5	8.6	0.5	0.5	0.8	13.6	3.3	2.0	1.6	4.6	0.0	3.0
友人や仲間誘われて	26	10	24	50	40	15	26	27	2	14	1	235
%	6.0	6.2	12.1	11.5	10.2	6.2	7.9	8.9	3.1	4.6	4.5	8.1
他に選ぶものがなかった	37	19	24	44	47	12	32	49	3	50	3	320
%	8.5	11.7	12.1	10.1	11.9	4.9	9.7	16.1	4.7	16.3	13.6	11.1
体力や技術が劣るがこの種目ならできそうだったので	39	1	12	30	5	4	30	13	3	13	2	152
%	9.0	0.6	6.1	6.9	1.3	1.6	9.1	4.3	4.7	4.2	9.1	5.3
将来役に立つとおもったから	97	1	5	20	48	1	5	3	4	0	0	184
%	22.3	0.6	2.5	4.6	12.2	0.4	1.5	1.0	6.3	0.0	0.0	6.4
体力を高めたいから	3	12	9	5	14	13	8	9	22	41	2	138
%	0.7	7.4	4.5	1.1	3.6	5.3	2.4	3.0	34.4	13.4	9.1	4.8
特別な理由はなかった	20	12	20	51	43	18	35	34	4	34	0	271
%	4.6	7.4	10.1	11.7	10.9	7.4	10.6	11.2	6.3	11.1	0.0	9.4
その他	11	9	5	39	11	7	19	10	2	37	9	159
%	2.5	5.6	2.5	9.0	2.8	2.9	5.8	3.3	3.1	12.1	40.9	5.5
計	435	162	198	435	394	243	329	304	64	306	22	2892

注) 2項目の複数選択での回答

注) バスケはバスケットボール、バドミはバドミントン、バレーはバレーボール、W・トレはウエイト・トレーニング、T・フィはトータル・フィットネス、ADはアダブテッド・スポーツを示す

期) ごとに示したのが表8である。受講者数は開講数に比例するので、受講者が多い種目はその期の開講数も多い。また、ゴルフ、サッカー、バドミントンの3種目のように各期の受講者数が異なっているのは、受講者数や学生のニーズなどを考慮してその種目の開講数の増減を調整したからである。

(3) 受講希望の実現度 (表9・10)

表9は、授業科目(種目)を希望通りに受講できたかを学期別に示したものである。第1希望の種目が受講できた者は、1期88%、2期87.2%、3期82.8%であり、いずれの学期も8割以上が希望通りに受講している。

また、表10は、今期(平成7年度前期、3期目)の受講について、受講希望の実現度を学部別に示したものである。「希望通りに受講で

きた」と答えた者が83.5%となっており、大多数の学生が希望通りに受講している。しかし一方、希望通りに受講できなかった者が13.9%あることも無視できない。文学部、教育学部および理学部では希望通りに受講できなかった者がやや多くなっている(17%~20%)が、その理由については本調査からは明らかにできない。実技の授業では、施設や用具等に制約があるために、ほとんどの授業時間帯において受講調整を実施している。1クラスを受講者数は50名が上限であり、希望通りに受講できない学生がでることもやむを得ない面がある。こういった学生に対しては、次善の対応策として次期の履修に際して希望種目が優先的に受講できるようにするなど教育指導上の配慮をしている。

(4) 授業科目(種目)選択の理由(表11)

どのような基準にもとづいて授業科目(種目)を選択しているかを示したのが、表 11 である。選択理由は大別して、「運動不足の解消・健康の増進」(15.6%)、「経験のある好きな種目」(15%)、「経験のない(新しい)種目」(11.7%)の上位3つに特徴づけられるが、1位、2位に選ばれた理由から分類すると、授業科目(種目)は4つのタイプ(A~D)に分けられる。

A. サッカー、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール(中学・高校で学んだ既習のチームスポーツ)

1位が「経験のある好きな種目だから」、2位が「運動不足の解消・健康の増進をはかりたいので」の理由で選択されており、これらの種目は、中学、高校で学習する機会があり、すべてチームスポーツである。自分なりに楽しめる知識や技術を身につけていることから選択される種目といえる。

B. バドミントン、テニス(中学・高校で学んだ既習の個人スポーツ)

1位が「運動不足の解消・健康の増進をはかりたいので」、2位が「経験のある好きな種目だから」の理由で選択されており、これらの種目も中学、高校で学習する機会があるが、Aとの違いは、個人スポーツであることである。一

応自分なりに楽しめる知識や技術を身につけていることから選択される種目といえる。

C. ゴルフ(未習のスポーツ)

1位が「経験のない(新しい)種目だから」、2位が「将来役に立つと思ったから」の理由で選択されている。大学に入ってはじめて経験するスポーツで、初歩的な知識や技術を習得するために選択される種目である。

D. ウェイト・トレーニング、トータル・フィットネス(体力の向上、動きづくり)

1位が「体力を高めたいから」、2位が「運動不足の解消・健康の増進をはかりたいので」の理由で選択されている。科学的、合理的な体力づくりや動きづくりを学ぶために選択される種目である。

以上の結果から、第1に指摘できることは、選択理由はある特定の理由に偏ってはならず、多様な基準にもとづいて学生は授業科目(種目)を選択していることである。第2は、選択理由は種目によって異なっているということである。なお、「他に選ぶものがなかった」、「特別の理由はなかった」と答えたものが約20%おり、開講種目や履修方法に一層の工夫が必要であろう。

(5) 授業への期待(表 12)

表 12 今期選択した種目別にみた履修種目に対する期待

期待の内容	ゴルフ	サッカー	ソフト	卓球	テニス	バスケ	バドミ	バレー	W・トレ	T・フィ	AD	計
スポーツや運動の楽しさや喜びを得られるような授業	98	51	75	137	118	76	112	78	5	53	2	805
運動不足が解消でき、健康や体力の向上に役立つような授業	22.6	31.1	37.7	31.7	29.6	31.1	34.0	25.8	7.8	17.3	8.0	27.8
ストレスの解消や気分転換になるような授業	100	42	65	139	87	58	83	95	6	67	4	746
新しいスポーツ技術が身につく、運動やスポーツの技術向上に役立つような授業	23.0	25.6	32.7	32.2	21.8	23.8	25.2	31.5	9.4	21.9	16.0	25.8
自己の身体への新しい認識に気づかせてくれるような授業	122	12	7	40	71	16	24	12	3	11	0	318
社会性や精神力などが養われるような授業	28.1	7.3	3.5	9.3	17.8	6.6	7.3	4.0	4.7	3.6	0.0	11.0
生涯スポーツに結びつく態度や習慣が身につくような授業	9	5	2	7	6	4	6	7	14	8	5	71
精一杯身体を動かすことのできるような授業	2.1	3.0	1.0	1.6	1.5	1.6	1.8	2.3	21.9	2.6	20.0	2.5
その他	16	1	2	7	3	2	2	4	1	2	0	40
計	3.7	0.6	1.0	1.6	0.8	0.8	0.6	1.3	1.6	0.7	0.0	1.4
生涯スポーツに結びつく態度や習慣が身につくような授業	58	4	4	7	15	0	7	5	2	17	1	120
精一杯身体を動かすことのできるような授業	13.4	2.4	2.0	1.6	3.8	0.0	2.1	1.7	3.1	5.6	4.0	4.1
その他	2	20	7	21	27	27	27	34	8	34	2	209
計	0.5	12.2	3.5	4.9	6.8	11.1	8.2	11.3	12.5	11.1	8.0	7.2
計	5	0	2	7	5	4	4	5	1	12	5	50
計	1.2	0.0	1.0	1.6	1.3	1.6	1.2	1.7	1.6	3.9	20.0	1.7
計	434	164	199	432	399	244	329	302	64	306	25	2896

注1) 2項目の複数選択

注2) バスケはバスケットボール、バドミはバドミントン、バレーはバレーボール、W・トレはウェイト・トレーニング、T・フィはトータル・フィットネス、ADはアダブテッド・スポーツを指す

注3) 上段は人数、下段は%を表す

表 13 種目選択実現度別にみた今期の授業出席意欲

授業出席意欲	希望通り		希望以外		希望なし		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
授業が待ち遠しくてたまらなかった	181	14.7	9	4.3	7	18.4	197	13.3
待ち遠しいほどではないが積極的に出席した	658	53.4	77	37.0	11	28.9	746	50.5
必修科目だから出席した	294	23.9	74	35.6	10	26.3	378	25.6
出席するのにやや消極的であった	65	5.3	21	10.1	4	10.5	90	6.1
いやいやながら出席した	34	2.8	27	13.0	6	15.8	67	4.5
計	1232		208		38		1478	

注) 種目選択実現度の「希望通り」、「希望以外」、「希望なし」は表10の希望の実現度による分類である

表 14 種目選択実現度別にみた今期履修した種目に対する期待の達成度

期待の達成度	希望通り		希望以外		希望なし		計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
十分達成された	242	19.7	10	4.9	4	10.5	256	17.4
ある程度達成された	682	55.4	94	45.9	10	26.3	786	53.4
どちらともいえない	199	16.2	51	24.9	9	23.7	259	17.6
あまり達成されなかった	84	6.8	35	17.1	10	26.3	129	8.8
まったく達成されなかった	23	1.9	15	7.3	5	13.2	43	2.9
計	1230		205		38		1473	

表 12 は、学生がどのような授業を期待しているかを示したものである。多い順にあげると、「スポーツや運動の楽しさ」(27.8%)、「ストレスの解消、気分転換」(25.8%)、「健康や体力の向上」(18.6%)、「スポーツ技術の向上」(10.9%)となっている。また、授業科目(種目)による顕著な特徴がみとめられる。たとえばウエイト・トレーニングとトータル・フィットネスでは、当然ながら健康や体力の向上に役立つ授業が期待されており、各種スポーツではどの種目にも共通してスポーツや運動の楽しさが得られる授業が期待されている。さらに、スポーツ種目別にみると、ゴルフ、テニスではスポーツ技術の向上や新しいスポーツ技術の習得を期待する者が多く、サッカー、ソフトボール、バスケットボールなど中・高校で学習したスポーツ種目では、ストレスの解消や気分転換、健康・体力の向上を期待する者が多くなっている。このように種目による明らかな特徴がみられることから、授業では種目の特性に対応して、学生のニーズや期待に十分配慮したきめ細

かな授業計画や指導が必要となろう。

#### (6) 出席意欲(表 13)

「授業が待ち遠しくてたまらない」(13.3%)、「待ち遠しいほどではないが積極的に出席した」(50.5%)の両者を合わせた63.8%、すなわち約3人に2人が授業に積極的に出席している。「いやいやながら出席した」(4.5%)、「出席するのにやや消極的であった」(6.1%)の両者を合わせた10.6%が消極的な者といえるが、大多数の学生は授業に積極的に参加している。種目選択実現度との関係を見ると、「希望通りに受講できた」者には積極的な出席者が多く(68.1%)、「希望通りに受講できなかった」者では少なくなっている(希望以外41.3%、希望なし17.3%)。希望の種目が受講できるか否かが学生の出席意欲にかなり影響するものと思われる。

#### (7) 授業への期待の達成度(表 14)

表 14 は、今期履修した授業について、授業に期待したことがどの程度達成されたかを、種目選択実現度との関係からみたものである。



実技アンケート

表 15 今期の履修した種目に対する評価

今期の受講種目	1クラスの受講者数は						用具・施設は						授業内容のレベルは					
	多すぎた		ちょうど良い		少なすぎた		十分であった		どちらともいえない		不足していた		高すぎた		ちょうど良かった		低すぎた	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
ゴルフ	65	29.1	157	70.4	1	0.4	89	39.9	88	39.5	46	20.6	2	0.9	203	91.0	18	8.1
サッカー	35	42.2	47	56.6	1	1.2	39	47.0	30	36.1	14	16.9	1	1.2	63	75.9	19	22.9
ソフトボール	13	12.9	88	87.1	0	0.0	76	75.2	23	22.8	2	2.0	7	6.9	83	82.2	11	10.9
卓球	78	35.0	144	64.6	1	0.4	126	56.5	67	30.0	30	13.5	7	3.1	197	88.3	19	8.5
テニス	81	39.9	121	59.6	1	0.5	109	53.7	69	34.0	25	12.3	23	11.3	158	77.8	22	10.8
バスケットボール	45	36.6	77	62.6	1	0.8	59	48.0	52	42.3	12	9.8	13	10.6	102	82.9	8	6.5
バドミントン	33	19.9	133	80.1	0	0.0	118	71.1	40	24.1	8	4.8	12	7.2	146	88.0	8	4.8
バレーボール	41	26.6	105	68.2	8	5.2	106	68.8	41	26.6	7	4.5	6	3.9	125	81.7	22	14.4
W・トレーニング	12	13.7	20	62.5	0	0.0	17	53.1	7	21.9	8	25.0	0	0.0	28	87.5	4	12.5
T・フィットネス	35	22.0	119	74.8	5	3.1	89	56.0	50	31.4	20	12.6	19	11.9	135	84.9	5	3.1
AD・スポーツ	2	16.7	10	83.3	0	0.0	7	58.3	3	25.0	2	16.7	0	0.0	11	91.7	1	8.3
計	440	29.7	1021	69.0	18	1.2	835	56.5	470	31.8	174	11.8	90	6.1	1251	84.6	137	9.3

今期の受講種目	指導方法は						出席状況は							
	わかりやすかった		普通		わかりにくかった		全回出席		1回欠席		2回欠席		3回以上欠席	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
ゴルフ	106	47.5	110	49.3	7	3.1	98	43.9	72	32.3	46	20.6	7	3.1
サッカー	11	13.3	60	72.3	12	14.5	33	39.8	23	27.7	22	26.5	5	6.0
ソフトボール	30	29.7	65	64.4	6	5.9	55	55.0	17	17.0	25	25.0	3	3.0
卓球	63	28.3	137	61.4	23	10.3	101	45.5	73	32.9	37	16.7	11	5.0
テニス	58	28.6	110	54.2	35	17.2	73	36.1	79	39.1	38	18.8	12	5.9
バスケットボール	22	17.9	88	71.5	13	10.6	67	54.5	19	15.4	26	21.1	11	8.9
バドミントン	78	47.0	78	47.0	10	6.0	109	65.7	28	16.9	25	15.1	4	2.4
バレーボール	53	34.4	84	54.5	17	11.0	82	53.2	51	33.1	14	9.1	7	4.5
W・トレーニング	11	34.4	21	65.6	0	0.0	10	31.3	8	25.0	12	37.5	2	6.3
T・フィットネス	61	38.4	93	58.5	5	3.1	53	33.5	44	27.8	43	27.2	18	11.4
AD・スポーツ	5	41.7	7	58.3	0	0.0	6	50.0	3	25.0	3	25.0	0	0.0
計	498	33.7	853	57.7	128	8.7	687	46.6	417	28.3	291	19.7	80	5.4

注) W・トレーニングはウエイト・トレーニング, T・フィットネスはトータル・フィットネス, AD・スポーツはアダブテッド・スポーツを示す

「十分達成された」(17.4%)、「ある程度達成された」(53.4%)を合わせると、70.8%が肯定的である。一方、「あまり達成されなかった」(8.8%)、「まったく達成されなかった」(2.9%)を合わせても11.3%と少なく、学生の大多数は授業に期待したことが達成できたと評価している。授業科目(種目)が希望通りに受講できた者では、肯定的な者がさらに75.1%と高くなっているが、希望通りに受講できなかった者、すなわち希望以外、希望なしのグループでは、それぞれ50.8%、36.8%とかなり低い。希望の種目が受講できるかどうか、期待の達成度に大きく影響すると考えられる。

(8) 授業評価(表15)

① 1クラスの受講者数

1クラスの受講者数が「多すぎた」と答えた者が29.7%と、約3人に1人が多く感じている。種目別では、サッカー(42.2%)、テニス(39.8%)、バスケットボール(36.6%)、卓球(35.5%)は、かなりの者が多すぎたと感じ

ているが、ソフトボール(12.9%)、バドミントン(19.9%)、アダブテッドスポーツ(16.7%)では少なくなっており、種目によってかなりの開きがある。

② 用具・施設

「十分であった」が56.5%、「不足していた」が11.8%となっており、用具・施設が不足していると感じている者は多くない。ゴルフとウエイト・トレーニングの両種目では不足していると感じている者がやや多くなっている。

③ 授業内容のレベル

種目による差が若干みられるが、「ちょうど良かった」と答えた者が84.6%であり、全体的にみて授業内容のレベルは適切であったといえる。

④ 指導方法

「わかりやすかった」が37.7%、「普通」が57.7%、「わかりにくかった」は8.7%となっており、全体的にみて指導方法は適切であったと思われる。テニスとサッカーでは「わかりにく

表 16 今期の種目選択実現度からみた授業に対する満足度

今期の種目選択実現度	大変満足した		満足した		どちらとも言えない		不満であった		大変不満であった	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
希望通り	170	13.8	740	60.2	256	20.8	51	4.1	13	1.1
希望以外	5	2.4	93	44.7	73	35.1	20	9.6	17	8.2
希望なし	1	2.6	17	44.7	13	34.2	4	10.5	3	7.9
全体	176	11.9	850	57.6	342	23.2	75	5.1	33	2.2

注) 今期の種目選択実現度の「希望通り」、「希望以外」、「希望なし」は表10の希望の実現度による分類である

表 17 3期の授業の種目選択方法

種目選択方法	人数	%
3期とも異なる種目を受講する	909	62.3
3期とも同一の種目を受講する	64	4.4
場合によっては同じ種目を受講する	487	33.4
計	1460	

かった」がやや多くなっている。

#### ⑤ 出席状況

「全回出席」(46.6%)、「1回欠席」(28.3%)の両者を合わせると、74.9%になり、4人に3人が欠席1回以内であることから、出席状況は全般的にみて良好であるといえる。種目別に全回出席者を見ると、バドミントン(65.7%)、ソフトボール(55%)、バスケットボール(54.5%)、バレーボール(53.2%)は5割以上と多く、一方ウエイト・トレーニング(31.3%)、トータル・フィットネス(33.5%)、テニス(36.1%)は低くなっており、種目により出席状況に若干の差がみられる。

#### (9) 授業の満足度(表16)

表16は、今期(3期目)の授業に対する満足度を種目選択実現度との関係からみたものである。「大変満足」(11.9%)、「満足」(57.6%)の両者を合わせると69.5%が満足しており、一方「不満」・「大変不満」は7.3%と少なく、大多数の受講者は授業に満足している。また、種目選択実現度との関係を見ると、希望通りに受講できた者の満足度はきわめて高いが(74%)、希望の種目が受講できなかった者(希望以外47.1%、希望なし47.3%)の満足度は低い。これらの結果は授業の満足度は希望する種目が受講できるか否かに大きく関係していることを示すものである。

表 18 3期の受講時期の希望

受講時期	男子		女子		全体	
	人数	%	人数	%	人数	%
1期	998	29.9	278	30.8	1276	30.1
2期	949	28.4	264	29.2	1213	28.6
3期	980	29.4	271	30.0	1251	29.5
4期	125	3.7	32	3.5	157	3.7
5期	149	4.5	37	4.1	186	4.4
6期	89	2.7	18	2.0	107	2.5
7期	30	0.9	3	0.3	33	0.8
8期	19	0.6	1	0.1	20	0.5
計	3339		904		4243	

注) 3項目の複数選択

#### 2) 今後の授業に対する意見・要望

##### (1) 3期間の授業の種目選択方法(表17)

3期間受講する種目の選択方法として、「3期とも異なる種目を受講する」のがよいと答えた者が最も多くて62.3%、「場合によっては同じ種目を受講する」が33.4%であり、両者の比率はほぼ2:1である。また、3期とも同一種目を受講するのがよいと答えた者は4.4%とわずかであり、学生は3期を通して複数の種目の中から幅広く学びたいと考えている。

##### (2) 必修期間(3期の受講時期)(表18)

3期の受講時期の希望についてみると、1期、2期、3期において3単位を履修するというのが88.1%と大多数であり、次いで、4期(3.7%)、5期(4.4%)、6期(2.5%)と続き、少数ではあるが、7期(0.8%)や8期(0.5%)に希望する者もいる。今回の調査対象の学生は、1期、2期、3期で履修が終了するので、大多数が現状肯定的回答をしたと考えられる。

##### (3) 必修単位数(表19)

表19は、必修単位数は何単位が適当であると学生が考えているかを、授業の満足度(3期間の満足度)との関係からみたものである。

表 19 3 期間の受講に対する満足度から見た必修希望単位数

3 期間の満足度	必修希望単位数						計
	現状のまま3単位		現状よりも多い方がよい		現状よりも少ない方がよい		
	人数	%	人数	%	人数	%	
非常に満足	148	19.5	116	27.4	28	9.9	292
やや満足	445	58.7	232	54.8	144	50.7	821
どちらとも	124	16.4	43	10.2	75	26.4	242
やや不満足	33	4.4	22	5.2	26	9.2	81
非常に不満足	8	1.1	10	2.4	11	3.9	29
計	758	51.7	423	28.9	284	19.4	1465

表 20 3 年次以降の受講の意思

受講意思の程度	【卒業単位として認められる場合】		【卒業単位として認められない場合】	
	人数	%	人数	%
授業を調整してでも選択したい	206	14.0	71	4.8
授業の空き時間があれば選択したい	1053	71.8	619	42.2
選択したくない	208	14.2	776	52.9
計	1467		1466	

「現状のまま3単位」が51.7%、「現状よりも多い方がよい」が28.9%、「現状よりも少ない方がよい」は19.4%となっており、約半数が現状がよいと考えている。「多い方がよい」とする必修拡大派は「少ない方がよい」とする縮小派よりも約10ポイント高くなっている。授業満足度（3期間を通して）との関係を見ると、拡大派は授業に満足している者が多く（82.2%）、一方縮小派には満足している者は比較的少ない（60.6%）。必修単位数と授業満足度は有意な関連にある。

(4) 3 年次以降の受講意志

① 受講の意志 (表 20)

3 年次以降の「生涯健康とスポーツ」実技の受講意志をみると、表 20 に示すように、まず、【卒業単位として認められる場合】では、「授業を調整してでも選択したい」と積極的な受講意志をもつ者が14%、「授業の空き時間があれば選択したい」とやや消極的な受講意志の者が71.8%あり、両者をあわせると受講意志のある者は85.8%に達する。選択したくないと答えた者は14.2%にすぎない。一方、【卒業単位として認められない場合】でも、「授業を調整してでも選択したい」が4.8%、「授業の空き時

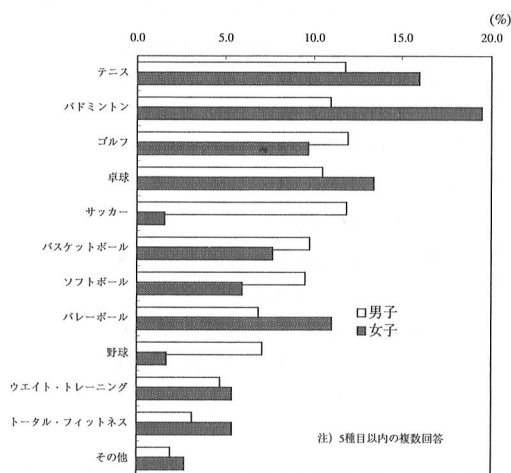


図 2 男女別に見た3年次以降の開講希望種目

間があれば選択したい」が42.2%と、5割近い者が履修を希望している。空き時間があればという条件付きの受講を希望する者が多い現状を考えれば、3年次以降の実技を時間割のなかにどう組み込んでいくかを検討する必要がある。

② 希望種目 (図 2)

図 2 は、3 年次以降に開講を希望する種目を男女別に示したものであるが、希望する種目は

男女間で若干の違いがみられる。男子ではゴルフ、サッカー、テニスを多くが希望し、次いでバドミントン、卓球、バスケットボール、ソフトボール、野球、バレーボール、ウエイト・トレーニング、トータル・フィットネスの順である。一方、女子ではバドミントン、テニス、卓球を多くが希望し、次いでバレーボール、ゴルフ、バスケットボール、ソフトボール、ウエイト・トレーニング、トータル・フィットネス、野球、サッカーの順となっている。いずれも現在開講している種目があげられており、今後は新しい種目についても学生の希望を調査する必要があるだろう。

### 3. まとめ

以上の結果を簡潔にまとめると次のようである。

#### 1) 学生の健康と体力

- (1) 自己評価からみた学生の健康状態は良好とはいえず、現在の健康状態に満足している者は半数に達しない。
- (2) 自己評価からみた学生の体力は低く、現在の体力レベルに満足している者は1割に過ぎない。

#### 2) 運動の実施状況

- (1) 大学の運動部所属者は5人に1人に過ぎず、現在何らかのグループに入ってスポーツ活動をする学生は半数に達しない。
- (2) 大学の授業以外に日常ほとんど運動しない学生は半数近くに上る。

#### 3) 授業評価

- (1) 大多数の学生が希望する授業科目(種目)を受講している。
- (2) 学生が授業に期待する内容や授業を選択する理由は多岐にわたっているが、それは種目によって異なり、それぞれの種目の特性を反映したものになっている。
- (3) 学生の出席状況は良好であり、多くの学生が授業に積極的に出席している。また、大多数の学生が授業に期待したことが達成できたと考えており、授業にも満足している。しかし、希望通りに受講できなかった

者の評価は、希望通りに受講できた者に比べて、出席状況、出席意欲、期待達成度、授業満足度のすべてにおいて否定的である。

- (4) 学生の3人に1人が1クラスの受講者数は多すぎたと感じているが、用具・施設、指導内容のレベル、指導方法については、大多数の学生がおおむね良好な評価をしている。
- (5) 必修単位数については、現状維持派が5割を超え、必修単位数の拡大派が縮小派を上回っている。
- (6) 3年次以降における実技受講の意志については、卒業単位に認められる場合には8割を超える学生が受講を希望している。

われわれは『生涯健康とスポーツ』の実技に関する教育計画を立てるにあたって、情報として大切な点は3つあると考える。

- ① 学生の健康状態を正しく知り、健康面からみた学生の生活実態がどのような状況におかれているかを把握すること。
- ② 学生の体力や運動能力の現状を把握すること。
- ③ 学生の日常的な体育活動やスポーツ活動の実態を把握すること。

これらの情報にもとづいて、学生の健康や運動生活の現実に立脚した教育計画を立てることがきわめて重要である。本調査では、これらの点について不十分なデータしか得られなかったが、その限られたデータからみても学生の健康状態や運動能力、体力レベルには問題があり、運動実践についても同様であった。本学における『生涯健康とスポーツ』の役割がますます重要性を増してきている所以である。

学生の実技授業に対する評価は全般的に良好であった。現状に甘んずることなく、よりよい授業に向けての改善が必要なのはいうまでもない。よい授業の条件とは何か。本調査では、授業に積極的に出席する学生は6割を超えており、授業は一応評価されたとみてよいが、「授業が待遠しくてたまらなかった」と答えた者は10数%にとどまっている。学生に対しては授

業を待遠しく思うほどの高い学習意欲を期待したいが、それはどのような条件から生み出されるのであうか。希望通りの授業を受講できた場合には、学生は授業により積極的に出席する傾向がみられた。希望種目の受講が基底にあって、学生は授業に積極的に出席し、そこでより多くのものを達成し、満足度を高めている。さらに、高学年においても実技を受講したいという意欲に結び付くという好循環が形成されていると考えられる。教育計画は、学生の健康状態や体力、運動能力、運動実践を正しく知り、その現実に即したものでなくてはならぬことはすでに述べたが、われわれはよい授業の創造に向けて、1クラスの人数、用具・施設、指導方法などの改善をすすめるとともに、さらにつけ加えて重要なことは、学生のニーズに応えることのできる多様な授業科目(種目)を開講し、希望通りの授業を学生が受講できる諸条件の整備を実行していくことであらう。

#### IV. 今後の課題

教養部教育から名古屋大学の教育改革の柱である「四年一貫教育」に移行するにあたって、従来の体育実技は『生涯健康とスポーツ』・実技となった。その改革後初めて規定の単位数を修得した学生が誕生するにあたって、今後の教育の充実、発展のための基礎資料を得るため、『生涯健康とスポーツ』の実技授業に対する感想や授業への希望、学生の体力や健康意識を調査する目的でアンケート調査を実施し、分析した。しかし、最初のアンケート調査であるということもあり、以下のような問題点も浮き彫りにされてきた。

1) 調査項目を5項目とした関係上、質問数が非常に多くなってしまった。結果としてデータ数が多くなったため、分析の手法として単純集計が主体となり、項目間の関係を探るためのクロス集計を行なうなど、きめ細かい分析があまりできなかった。従って今後は調査項目を見直してある程度項目数を限定し、より多角的な分析を行なう必

要があると思われる。

- 2) アンケートを実施することが決定してから実際にアンケートを実施するまでの時間が1ヶ月程度しかなく、質問項目を十分に吟味することができなかった。次のアンケートでは今回の結果を考慮し、十分な準備期間を置いて質問項目等を吟味し直す必要がある。
- 3) 2年生前期終了時点という時間的制限で経済学部及び法学部のデータが欠落しているため、学部間比較などが十分できなかった。特に法学部については、選択制を取っていることもあり、他の学部との比較は非常に重要な意味を持つと思われる。この点について、法学部の学生が3単位取り終える2年生後期の授業終了時に同じ調査を実施して、必修の学部と比較する必要がある。
- 4) 今回は必修単位修得後の実技授業のあり方などについてのアンケートも含まれていたため、対象が3単位修得者(2年生)となっていたが、授業に対する自己点検、評価という観点から見れば期間を問わず、実技を受講した全学生にアンケートを実施する必要がある。今回のアンケートの中でも過去の授業について尋ねる項目がいくつか見受けられるが、迅速なフィードバックということを考えると、各期ごとにアンケートする方が望ましいかもしれない。

以上述べてきたように、今回のアンケートに対するいくつかの問題点が指摘された。今後これらの点を考慮し、アンケートをよりよいものにしていく努力が必要である。また、今回はアンケートの範囲が実技だけに留まったが、基本主題科目『生涯健康とスポーツ』には「講義及び実習」も開講されており、両者が総合的、有機的に結合し合っ初めて本主題科目のねらいである健康の維持・増進が達成されると考えられる。その意味でも今回できなかった講義及び実習についてもアンケート調査を実施し、授業の改善とさらなる発展を進めて行く必要がある。

以上のような反省材料をもとに、アンケートを単年度に終らせることなく、改善を加えなが

ら継続的に実施していくことが重要であることは言うまでもない。アンケートの結果から、学生が自分自身の健康や体力に関して漠然とした不安感を抱いていることが伺われるが、これらの点に対する基本主題科目『生涯健康とスポーツ』の果たす役割は非常に大きい。また、学生は『生涯健康とスポーツ』の実技の授業について概ね満足しており、好意的で肯定的であるが、一方で実際の授業について多数の問題点や改善しなければならない点、さらには高学年次における履修など新たに将来構想を構築しなければならない点が出してきた。勿論、学生の意見には真摯な態度で耳を傾ける必要があるが、施設上または教官の人的制限のために、すべての課題を解決するのは困難であるし、なかには学生自体が安易な方向に流れてしまっている場合があることも見逃してはならない。いずれにせよ、カリキュラムの改善や教育施設・設備の充

実、指導法の質的向上など、教育を行なう側である我々として今後とも果たさなければならない責務は数知れない。以上述べてきたいくつかの点をふまえ、教育を受ける側の学生の意見や希望と、教育を行なう側である我々の教育理念を高い次元で融合させ、よりよい教育を目指す努力を今後とも地道に積んで行くことが重要であると考えている。

## 参 考 文 献

- 野村浩康：名古屋大学における四年一貫教育、学園だより、97号、1994  
近藤哲生：教養部の廃止に当たって、教養部ニュース、No.87、1994  
名古屋大学事務局庶務課（編）：21世紀を目指す名古屋大学の新たな展開：名大トピックス、No.13、1994  
名古屋大学四年一貫教育計画委員会：名古屋大学における授業アンケート調査報告書（全学共通科目）、1995

(1995年12月5日受付)